

日本貝類学会平成22年度大会 The 2010 Annual Meeting of the Malacological Society of Japan

会期：平成22年4月10日（土）～11日（日）

会場：名古屋大学野依学術記念交流館

口頭発表・総会・公開講演会：カンファレンスホール（2階）

ポスター発表：会議室（1階）

4月10日（土）

9:00～ 受付開始

口頭発表Ⅰ <座長：上島 励（東京大学）>

10:00～10:15 A-01 カサガイ類の比較解剖学：上位分類群の定義形質の再検討

佐々木猛智[○]（東京大学総合研究博物館）・中野智之（国立科学博物館）

10:15～10:30 A-02 有殻翼足類の殻体構造

佐々木悠（東大・理・地球惑星科学）・佐々木猛智[○]（東大・総合研究博物館）

10:30～10:45 A-03 現生単板類の多様性と進化

狩野泰則[○]（東京大学海洋研究所）・木村昭一・木村妙子（三重大院・生物資源）

・Anders Warén（スウェーデン国立自然史博物館）

口頭発表Ⅱ <座長：狩野泰則（東京大学海洋研究所）>

10:45～11:00 A-04 南アフリカの干潟に棲む所属不明のリソツボ上科貝類

福田 宏[○]（岡山大・農）・Winston F. Ponder（Australian Museum）

11:00～11:15 A-05 シモキタシブキツボ（腹足綱：イツマデガイ科）の分類学的位置

福田 宏[○]（岡山大・農）・多々良有紀（東邦大・理）

11:15～11:30 A-06 日本産イツマデガイ科貝類の分子系統地理

亀田勇一[○]・加藤 真（京都大学大学院人間・環境学研究所）

11:30～11:45 A-07 マツバガイの色彩変異と生物地理

中野智之[○]（国立科学博物館）・佐々木猛智（東京大学総合研究博物館）・加瀬友喜（国立科学博物館）

11:45～12:00 A-08 Taxonomy of *Macridiscus* species (Bivalvia: Veneridae) from the Western Pacific: insights based on morphological and molecular evidences

Lingfeng Kong^{1○}, Akihiko Matsukuma², Ikuo Hayashi³, Yoshitake Takada³ and Qi Li¹
(¹Fisheries College, Ocean University of China, ²Kyushu University Museum, ³Japan Sea national Fisheries Research Institute)

12:00～13:00 昼休み

口頭発表Ⅲ <座長：木村妙子（三重大学）>

13:00～13:15 A-09 コモチカワツボ駆除にむけた基礎実験

園原哲司[○]（向上高校）・飯田 茜・緒方大地・中島美貴（向上高校生物部）

13:15～13:30 A-10 キグロタマツメタの産卵—ついにとらえた卵塊形成の現場

山口竜平[○]・大越健嗣（石巻専修大理工）

13:30～13:45 A-11 外来種ホンビノスガイ *Mercenaria mercenaria* の形態学的・分子生物学的特徴と属位

松隈明彦[○]（九大総合研究博物館）・孔 令鋒（中国海洋大）・高田良二（西宮市貝類館）

14:00～14:45 ポスター発表 コアタイム（奇数番号）

口頭発表Ⅳ <座長：亀田勇一（京都大学）>

- 15:00～15:15 A-12 コハクオナジマイマイは基本的に卵では越冬しない
入村信博[○]（千葉県立磯辺高校）・浅見崇比呂（信州大・理・生物）
- 15:15～15:30 A-13 カタツムリの産卵生態とその種間変異
佐川文夏[○]・浅見崇比呂（信州大学理学部）
- 15:30～15:45 A-14 オナジマイマイとスグヒダギセルのラセミ現象
宇津野宏樹[○]・Shithila Kasem（信州大・理）・福田 宏（岡山大・農）
・浅見崇比呂（信州大・理）
- 15:45～16:00 A-15 パラオ諸島産エンザガイ類の分類学的再検討
上島 励（東京大学）
- 16:00～16:15 A-16 パラオ固有ベッコウマイマイ類 *Palaua* 属の特異な生殖器形態、交尾行動と形態学的変異
上島 励（東京大学）

口頭発表Ⅴ <座長：石田 惣（大阪市立自然史博物館）>

- 16:15～16:30 A-17 琵琶湖産カワニナ属 2 種の核型と歯舌形態
高見明宏（愛知県名古屋市）
- 16:30～16:45 A-18 オカミミガイの個体群維持機構—汐川干潟における9年間の個体識別調査から—
木村妙子[○]・木村昭一（三重大院・生物資源）
- 16:45～17:00 A-19 オカミミガイは何センチの高さに棲むのか？—三重県田中川河口干潟における分布特性と生息環境—
北村 優・木村妙子[○]（三重大院・生物資源）・南部亮元・齊籐 肇（水工研）
- 17:00～17:15 A-20 "*Costasiella kuroshimae*" と本邦産 *Costasiella* 属（腹足綱・囊舌目）の多様性
平野弥生[○]（千葉大・海洋バイオ）・Cynthia D. Trowbridge（オレゴン海洋生物学研究所）
・須藤耕佑（千葉大・院理・生物）・西田和記（千葉大・理・生物）
・平野義明（千葉大・院理・生物）
- 17:15～17:30 A-21 NW Pacific sacoglossan guild associated with filamentous green algae
Cynthia D. Trowbridge^{○1}, Yayoi M. Hirano² and Yoshiaki J. Hirano^{2,3}
(¹Oregon Institute of Marine Biology, ²Marine Biosystems Research Center, Chiba University, ³Department of Biology, Graduate School of Science, Chiba University)

18:00～20:00 懇親会（レストラン花の木）

4月11日（日）

8:30～ 受付開始

口頭発表Ⅵ <座長：延原尊美（静岡大学）>

- 9:00～ 9:15 B-01 北海道近海・サハリンにおける貝類相研究の現状
山崎友資[○]（北大院水産科学）・園田武・千葉晋（東農大生物産業）・野別貴博（知床財団）
・五嶋聖治（北大院水産科学）
- 9:15～ 9:30 B-02 日本列島北部太平洋岸の漸深海帯から深海帯に分布するエゾボラ属
長谷川和範[○]（国立科学博物館）・栗原康裕（北海道水産試験場）
- 9:30～ 9:45 B-03 ハチジョウチチカケガイ（*Titiscania shinkishihataii*）の内部形態について
田村一利（新潟県立新津高等学校）
- 9:45～10:00 B-04 日本海西部海域の但馬海岸で確認された2種の裸殻翼足目
伊藤公一（城崎マリンワールド）

口頭発表Ⅶ <座長：佐々木猛智（東京大学総合研究博物館）>

10:00～10:15 B-05 シロウリガイとシマイシロウリガイの繁殖生態

瀬尾絵理子[○]（東京海洋大学大学院・海洋研究開発機構）・藤倉克則・渡部裕美
・吉田尊雄・河戸 勝・丸山 正（海洋研究開発機構）・今井秀行（琉球大学）

10:15～10:30 B-06 アマオブネ科腹足類における卵食とカバクチカノコの託卵行動

福森啓晶[○]（宮崎大学・農）・狩野泰則（東京大学海洋研究所）

10:30～10:45 B-07 シマトラフヒメシャコの巣穴に共生する *Divariscintilla* (異歯亜綱 ウロコガイ科；日本及び北太平洋新記録属) の未記載種

山下博由[○]（貝類保全研究会）・芳賀拓真（東京大学）・和田太一（南港ウエットランドグループ）・Jørgen Lützen (Biological Institute, University of Copenhagen)

10:45～11:00 B-08 イノリキクイガイの矮雄におけるプロジェネシス

芳賀拓真[○]（東大院・理・生物科学・進化）・加瀬友喜（科博・地学）

11:00～12:00 平成 22 年度総会

12:00～13:00 昼休み

13:00～14:00 公開講演会

「豊かな伊勢・三河湾の再生のために」

鈴木輝明（名城大学大学院総合学術研究科特任教授（元愛知県水産試験場長））

14:15～15:00 ポスター発表 コアタイム（偶数番号）

口頭発表Ⅷ <座長：浅見崇比呂（信州大学）>

15:15～15:30 B-09 二枚貝の殻を 2 枚にした発生プログラムの変更を探る

栗田喜久[○]・和田 洋（筑波大院・生命環境）

15:30～15:45 B-10 Evolutionary Innovation 軟体動物 巻貝における蓋の形成メカニズム

橋本直樹[○]・栗田喜久・和田 洋（筑波大院・生命環境）

15:45～16:00 B-11 ヨーロッパモノアラガイの卵塊に存在する抗菌酵素 LAO の特徴と作用機序について

尾城 隆[○]・見越正太郎・内山佳丈・田代有里（海洋大・海洋生命科学）

口頭発表Ⅸ <座長：西 浩孝（豊橋市立自然史博物館）>

16:00～16:15 B-12 チャコウラナメクジにおける温度耐性の季節変化とそれをもたらす要因

宇高寛子[○]・後藤慎介（大阪市大・院理）・沼田英治（京大・院理）

16:15～16:30 B-13 宿主から一旦離れたハナゴウナ科貝類はどのように宿主を再び見つけるか？

松田春菜[○]（広大院生物圏科）・浜野龍夫（徳島大）・長澤和也（広大院生物圏科）

16:30～16:45 B-14 東海沖の貝類遺骸群集型と海底地形との関係

延原尊美[○]（静岡大）・池原研（産総研）

16:45～17:00 B-15 豊かな内湾の貝類相 5 —愛知県名古屋港—

木村昭一（三重大院・生物資源）

ポスター発表 <コアタイム 奇数番号：10 日 14:00～14:45, 偶数番号：11 日 14:15～15:00>

P-01 和歌山県の新第三系産アダンソンオキナエビスガイ属 *Entemnotrochus* Fischer, 1885 の化石
富田 進[○]（中京学院大学）・左向幸雄（和歌山県）

P-02 菊川市潮海寺の満水層産軟体動物化石とその古生物地理学的意義

井上恵介[○]（名古屋大院・環境）・大江文雄（愛知県瀬戸市）・早川周作（静岡県藤枝市）

P-03 福岡県の漸新統芦屋層群から産出した日本最古の *Vaginella* 属（腹足綱：有殻翼足目）化石
安藤佑介[○]・氏原 温・市原 俊（名古屋大院・環境）

- P-04 飛島埠頭（愛知県飛島村）で確認された新たなスナガイ科の外来移入種の記録ならびに名古屋港周辺地域の陸産貝類相
早瀬善正[○]（榊東海アクアノーツ）・木村昭一（三重大学生物資源学部）
- P-05 千葉県での初記録となる外来淡水巻貝コモチカワツボ
園原哲司[○]（向上高校）・飯田 茜・緒方大地・中島美貴（向上高校生物部）
- P-06 三重大学練習船勢水丸によって熊野灘より採集された日本初記録の単板綱，セイスイガイ（新種）
木村昭一^{○*}・木村妙子^{*}・狩野泰則（東大海洋研）・内田 誠^{*}（*三重大院・生物資源）
- P-07 南日本で採集されたクシノハソヒモ属（溝腹綱：カウイベロニア目：シタナシホソヒモ科）の1新種
齋藤 寛[○]（国立科学博物館）・Luitfried von Salvini-Plawen（ウィーン大学）
- P-08 日本産ベッコウバイ亜科の4未記載種について
土屋光太郎（東京海洋大学）
- P-09 徳島県伊島で新たに確認された非海産貝類—特にスメアゴル科の発見
福田 宏[○]（岡山大・農）・多々良有紀（東邦大・理）
- P-10 沖縄県渡名喜島の非海産貝類相
福田 宏[○]（岡山大・農）・多々良有紀（東邦大・理）
- P-11 公園内の二次林におけるアマノヤマタカマイマイの生息環境と生活史
青野倫行[○]・竹内将俊（東京農業大学短期大学部）
- P-12 陸産貝類で見られる種間干渉によるハビタット分化
木村一貴（東北大学・院・生命科学）
- P-13 海草スガモ葉上におけるウチダヘソカドタマキビの産卵場所選択
金森 誠[○]（函館水試）・長谷川夏樹（水研セ・北海道区水研）・向井 宏（京大・フィールド研）・五嶋聖治（北大院・水産）
- P-14 アコヤガイとクロアワビの貝殻タンパク質の比較
宮本裕史（近畿大・生物理工）
- P-15 新潟沿岸浅海砂泥域におけるキサゴの個体群サイズの増加過程と色彩多型
高田宜武[○]（水研セ日本海区水研）・林 育夫（熊野生物研究所）
- P-16 アラムシロにおける殻色多型の地理的変異
坂田 健[○]・香取祥人・林 誠司（名古屋大院・環境）
- P-17 局所スケールにおけるクロタマキビの殻色多型
山崎友資[○]・五嶋聖治（北大院水産科学）
- P-18 ヒメイカの長時間輸送に関する知見
春日井隆[○]（名古屋港水族館）・佐藤成祥（北大院・環境）
- P-19 幼生はどこまでのぼる？河口感潮域における両側回遊性貝類の着底位置
吉田博美[○]・安永由布子・福森啓晶（宮崎大学・農）・狩野泰則（東京大学海洋研究所）
- P-20 *Fungiacava eilatensis* Goreau et al., 1968（二枚貝綱：イガイ科）の系統
大和田正人[○]（神奈川大・理）・Bert W. Hoeksema（Naturalis Museum in Leiden）
- P-21 ニッコウガイ上科の系統関係と分類の再検討
氏野 優[○]（東京大・理）・松隈明彦・三島美佐子（九州大・総合研究博物館）
- P-22 分子系統解析に基づくウグイスガイ上科二枚貝の付着基盤利用様式の進化
椿 玲未[○]・亀田勇一・加藤 真（京都大学大学院 人間・環境学研究科）
- P-23 鯨骨付着二枚貝と沈木付着二枚貝の貝殻微細構造—その類似点と相違点
伊藤 希・大越健嗣[○]（石巻専修大院）・藤原義弘（JAMSTEC）・山本智子（鹿児島大）
・芳賀拓真（東大・科博）
- P-24 日本産カワザンショウ属の分子系統（予報）
多々良有紀[○]（東邦大・理）・福田宏（岡山大・農）
- P-25 タマガイ科の成長—サキグロタマツメタとツメタガイの比較
鈴木聖宏[○]・大越健嗣（石巻専修大理工）

（右肩○印＝発表者）